

釜石地方原木しいたけ生産技術研修の実施について

1 はじめに

釜石地方の原木しいたけは、かつて、生産技術などが評価され天皇杯を受賞したのに加え、全国の品評会で農林水産大臣賞を数多く受賞し、県内でも有数の品質を誇っていました。

震災以前は、釜石市で27名、大槌町で43名の生産者がいましたが、放射性物質の影響により出荷制限が指示され、現在は、釜石市で2名、大槌町で16名が一部解除されているにとどまっています。

近年、市場価格の低迷や生産者の高齢化によって、植菌量が大幅に減少していますが、改めて生産者に意欲をもって生産を続けていただくとともに、産地力の向上を目指し、生産技術研修会を開催することにしました。

今回は、原木しいたけの販売単価向上を目的に、岩手県林業技術センターの佐々木上席林業普及指導員を講師に迎え、8名の参加により、乾しいたけの選別等に係る研修を行いましたので紹介します。

2 研修内容

(1) 令和3年春子の作柄について

全県の作柄が「不作」傾向であり、特に沿岸地域では3～6割程度と厳しい状況にあることの説明がありました。

参加者からは、例年の1～2割の収穫量だったとの声もあり、特に釜石地域では、過去に例をみない不作となりました。



講師から、今年の気象条件の詳しい分析も行っていただいたことから、今年の

秋子や来春の生産に向けて、散水管理や防風対策を徹底していきます。

(2) 原木乾しいたけの市場動向について

最近、輸出向けとなる花系の単価が低い一方、アレ葉系の単価が堅調であることの情報提供がありました。

良品と、そうでないものの価格差が少なく、良品生産に対する意気が上がりにくい状況にありますが、アレ葉系でも一定の単価になることから、発生したしいたけは残らず取りきるつもりで、今後の生産に臨む必要性を感じました。

(3) 原木しいたけの選別について(実習)

最後に、どんこ系しいたけを実際に使って、品評会出品を想定した選別を参加者で行いました。

選別では、傘の大きさや亀裂の有無、菌縁(フチ)の巻き込み、石突の長さ等に注意しながら、目標とする量目に合わせた一定の品揃えを行いました。



3 終わりに

いつもは生産者一人、または夫婦で作業することが多いため、今回のように大勢の目で選別することにより、客観的な視点で生産物を評価することを経験していただきました。

残念ながら、市場価格は低迷した状況にありますが、良品が良品として正しく評価されることが、何よりも生産者の励みとなります。

市場関係者には、産地の存続のためにも、適正価格での取引を期待しています。